

学年	ページ	開講科目
1年	9	日本語表現法
1年	12	コミュニケーション演習
2年	51～52	地域保健・保健統計
2年	63	う蝕予防処置法（臨床基礎）
2年	68	口腔リハビリテーション論
3年	84	臨床医学
3年	87	う蝕予防処置法（臨床応用）
3年	88～89	歯周病予防法（臨床応用）
3年	90～91	保健指導演習Ⅲ（臨床総合）
3年	92	口腔リハビリテーション演習
3年	95	救急法・救急蘇生法
3年	101	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●									
科目名	日本語表現法				単位認定者	徳田 幸雄		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題 （チェックテスト）	50 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	日常生活において、適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。 ・日本語の特徴を理解するとともに、正しい敬語表現を身につける。 ・目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。									
学修者への期待等	日本語を知ることは日本文化を知ることでもある。社会人のための教養という面だけではなく、自らの文化を再認識・再評価し、さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴					日本語と英語との相違を考えてみよう。(10分程度)				
2	日本語の歴史					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
3	ことばと表現①(熟語、語句)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
4	ことばと表現②(ことわざ、故事成語)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
5	敬語表現①(敬語の基本)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
6	敬語表現②(尊敬語と謙譲語)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
7	修飾語と被修飾語との関係					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
8	修飾語と被修飾語との関係(練習問題)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
9	句読点の打ち方(原則論)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
10	句読点の打ち方と文章要約(述語への着目)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
11	句読点の打ち方と文章要約(必要な点と不要な点)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
12	句読点の打ち方と文章要約(境界の点)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
13	句読点の打ち方と文章要約(逆転の点)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
14	句読点の打ち方と文章要約(自由の点)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)				
15	文章の構成									
教科書	プリントを配布する。									
参考文献	『日本語の作文技術（朝日文庫）』本多勝一著（朝日新聞出版） 『大学生のための日本語表現実践ノート』米田明美他著（風間書房）									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●	●			DH-0-HSO-01				
科目名	コミュニケーション演習				単位 認定者	未定		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30　%
						授業時間数	20　時間			
					授業形態	演習	授業回数		10　回	
授業の概要	教養を形成する上で、礼儀・作法をはじめとして型から入ることによって身体感覚として身につけられる修養的教養は重要な意義をもっている。社会人としてビジネスマナーのみならず、医療や介護の現場で必要とされる接遇やマナーを身につけるために、グループワークやロールプレイングなどの演習を中心に学んでいく。									
到達目標	社会人としての一般常識と医療職者としてのマナーを演習を通じて身につけ、さらに患者接遇の基礎知識やマナーについて実践できる能力を修得する。									
学修者への期待等	幅広い年代の患者様との接遇に備え、専門分野のみならず幅広い知識と洞察力を養ってほしい。日頃から適切なマナーを心がけ、コミュニケーション能力向上を目標に授業以外でも常に実践していただきたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	コミュニケーションの重要性を理解し、ビジネスで求められるコミュニケーション能力とは何かを理解する					あなたの考える「コミュニケーション」とは、どのようなものか？また、日常生活で気になっていることはないか？を考え、まとめてきてください。				
2	多様な価値観（人によって価値観はさまざまであることを理解し、他を思いやる必要性を認識する）					マナー、仕事、和、自我、結婚、給料、育児、出世の8項目について、あなたの語句の解釈と価値観の順位を考えてきてください。（約1時間）				
3	多様な価値観（多数決ではなく、話し合いの上で結論を導き出し、グループ全員で結果発表する）									
4	言葉遣い(敬語の必要性を理解し、各場面での敬語表現を演習する)									
5	電話応対(様々なケースに対応できるよう実践力を高める)									
6	電話応対(伝言メモの作成などで応用力を高める)									
7	社会人としてのマナーを身につける(患者接遇の基礎知識やマナーについて実践できる能力を修得する)									
8	ビジネス文書(礼状作成を通して、決まりごとを理解する)									
9	プレゼンテーションのテクニック(分かりやすく伝えることを学ぶ)									
10	プレゼンテーションのテクニック(分かりやすく伝えることを主目的にスピーチする)					「今、伝えたいこと」、「私の希望」、「自己紹介」の3項目から1つを選び、2分間でスピーチできるよう練習してきて下さい。（本番では、原稿を持つのスピーチはできません）				
教科書	教科書は使用せず、配布するプリントでの講義、演習となります。									
参考文献	『即戦力になる！！　ビジネスコミュニケーション　第2版』箱田忠昭著、日経BP社 『コミュニケーション基本テキスト』五十嵐健著、日本能率協会マネジメントセンター									
備考	授業内課題として、小テスト採点後、授業内で総括する。また、各演習を通して習熟度を総括する。2クラスに分かれて授業を実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-15				
	●									
科目名	地域保健・保健統計				単位 認定者	小野寺 健 大森 俊也 石河 理紗		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	40 時間		授業内課題（小 テスト等）	10 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	人々の健康に関わる地域の役割を学び、地域保健を担う組織の仕組みと特徴を理解する。また、集団を対象とした疾病予防と健康増進に関わる地域保健活動において歯科衛生士の役割を理解する。 保健統計では、歯科臨床や保健情報のデータから、統計学的な解析を行う方法を身につける。									
到達目標	・地域の人々の歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎と方策について理解する。 ・一人ひとりの生活行動が身近な地域福祉活動に結びつくものであること、また、一人ひとりが社会資源として地域福祉のネットワークに参画する必要性について理解する。 ・保健統計とは、健康増進、疾病予防、医療等人の健康に関する統計のことを指す。本科目では、保健統計の種類と意義を学修し、わが国の保健統計の変遷及び現状等について理解を深める。さらに医療の現場で得られる様々なデータは、そのままでは理解することが難しい場合も多い。そうしたデータを視覚的、数量的にまとめ、有用な情報を抽出するための方法を理解する。									
学修者への期待等	地域福祉について、口腔の健康に及ぼす要因も含めて理解する。基本的な統計学的手法について理解する。授業終了後に重要項目をまとめた小テストを実施するので、その内容については次回までに復習することが望ましい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	【遠隔(オンデマンド)】 地域保健・公衆衛生① 生活と健康、地域社会と保健対策の基本的な考え方を学び、時代の変化に伴う地域保健活動の変化から、今日の現状を概説する。					予習として教科書のⅢ編1章①～④を読んで授業に臨むこと。			石河 理紗	
2	【遠隔(オンデマンド)】 地域保健・公衆衛生② 健康づくり対策と地域歯科保健について説明する。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編1章⑤～を読んで授業に臨むこと。			石河 理紗	
3	【遠隔(オンデマンド)】母子保健 母子健康手帳に記載された口腔関連質問項目や妊産婦への歯科保健指導の要点について学ぶ。また1歳6カ月児、3歳児健康診断の目的と結果によるう蝕罹患型の分類、歯科保健指導の要点について学習する。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編2章を読んで授業に臨むこと。			石河 理紗	
4	【遠隔(オンデマンド)】 学校保健 学校保健の対象者とその意義、関係職員について学ぶ。また保健教育と保健管理の概要を理解する。学校歯科健康診断について診査の項目や記載事項、事後措置を学ぶ。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編3章を読んで授業に臨むこと。			石河 理紗	
5	【遠隔(オンデマンド)】 成人保健・高齢者保健 成人保健として生活習慣病のリスクファクターと成人期の口腔保健管理について学ぶ。また、高齢者保健として高齢者の保健対策や介護保険、地域支援事業について理解する。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編4章、6章を読んで授業に臨むこと。			石河 理紗	
6	【遠隔(オンデマンド)】 産業保健 産業保健の目的、関連法規について学び、職業性疾患の要因と歯科を含む特殊健康診断について理解する。また安全衛生管理について学習する。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編5章を読んで授業に臨むこと。			石河 理紗	
7	【遠隔(オンデマンド)】 精神保健 精神保健の定義、意義を学び、精神保健福祉行政や精神医療の現状と課題について理解する。また精神障害者の社会復帰と歯科保健の問題を考える。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編7章を読んで授業に臨むこと。			石河 理紗	
8	【遠隔(オンデマンド)】災害時歯科保健、国際保健 日常的災害対策や災害時の保健医療について学び、災害時の歯科保健、歯科の役割について理解する。また世界的な健康水準や保健医療水準について理解し、国際協力に関わる機関やその活動について学ぶ。					前回の復習として講義資料を再読しておくこと。 予習として教科書のⅢ編8～9章を読んで授業に臨むこと。			石河 理紗	
9	【遠隔(オンデマンド)】 まとめ これまでの授業内容について総括する					これまでの講義内容のうち、自分で理解不十分と思う部分について、教科書や講義資料を確認の上で授業に臨むこと。			石河 理紗	

回	授業計画	準備学修	担当
10	「地域福祉」の理解 1 地域福祉の全体像をとらえる(1) 少子高齢多死という人口減少社会とともに経済縮小社会に推移す+B27:M32ることに加え、受益と負担を知り、これまでの公助・共助・自助の概念に加えて「互助」の福祉コミュニティの形成、地域福祉の必要性を学ぶ。	スライド資料をもとに授業を進める。テキストは、体系的に構成され容易に読解できる。初回講義までに地域福祉のイメージを描けるよう、まずは、目次に目を通して置くこと。(概ね20分)	大森 俊也
11	「地域福祉」の理解 2 地域保健、地域医療の構想と超高齢における介護社会を連携する地域包括ケアのイメージをとらえ、Welfareの社会福祉からWell-beingの福祉社会への転換点としての社会福祉法の目的を知り、地域福祉の構成要素について理解を深める。	テキストの地域福祉の理念、理論、構成要素P18～27、地域福祉の主体・担い手P90～91を熟読しておくこと。(概ね20分)	大森 俊也
12	保健情報と保健統計、国家統計調査について	『保健情報統計学』の1～17ページを読んで授業に臨むこと。(概ね20分程度)	小野寺 健
13	保健情報と疫学(総論、方法論)、歯科疾患の指数(数量化と指数、様々な歯科保健指標)	『保健情報統計学』の18～70ページ(とりわけ、18～33ページ)を読んで授業に臨むこと。(概ね20分程度)	小野寺 健
14	「地域福祉」の理解 3 社会全体のあり方として地域福祉の理念について学ぶ。 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、アドボカシー、ボランティア、協働・パートナーシップ、エンパワメントを整理し、地域で支え合う事例から地域福祉の考え方を深める。	テキスト、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、アドボカシー、ボランティアコーディネーター、ソーシャルサポートネットワーク、パートナーシップの項目について通読しておくこと。(概ね30分)	大森 俊也
15	「地域福祉」の理解 4 地域福祉の推進を図るうえでの危機介入事例として、児童虐待について学ぶ。	テキストP124～P129の子どもと地域福祉を熟読しておくこと。(概ね20分)	大森 俊也
16	「地域福祉」の理解 5 地域福祉の推進主体としての民生・児童委員の活動と子供の貧困について学ぶ。	前4回の講義をもとに、地域福祉の必要性について脈絡を整理して、講義に臨むこと。(概ね20分)	大森 俊也
17	保健情報の分析手順(保健情報の収集、調査、母集団と標本抽出)	『保健情報統計学』の73～88ページを読んで授業に臨むこと。(概ね20分程度)	小野寺 健
18	保健統計の方法(データの特性、記述統計、推定と信頼区間、保健情報の多変量解析)	『保健情報統計学』の89～113ページを読んで授業に臨むこと。(概ね20分程度)。次回授業時、保健統計に関する小テストを行う予定。(概ね1時間程度の事前学修が必要)	小野寺 健
19	「地域福祉」の理解 6 地域福祉計画の実際として、仙台市地域福祉計画から地域福祉の進捗状況を学ぶ。	これまで学んだ地域福祉の課題を身近なこと、自分だったらどうする? どうしたい? どうとてほしいか、学びからの気づきを整理しておき、テキスト地域福祉政策P142～P151を熟読して講義に臨むこと。(概ね30分)	大森 俊也
20	保健情報の分析演習(解析と検定の演習)	『保健情報統計学』の114～136ページを読んで授業に臨むこと。(概ね20分程度)	小野寺 健
教科書	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『よくわかる地域福祉 第5版』上野谷加代子・松端克文・山縣文治編、ミネルヴァ書房 『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献			
備考	対面またはオンデマンド授業で実施する。小テスト課題は回収後、採点し、次回総括する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHP-02				
	●	●								
科目名	う蝕予防処置法（臨床基礎）				単位 認定者	鷲尾 純平 伊藤 恵美		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	20 時間			
						授業回数	10 回			
授業の概要	「歯科予防処置法」で学んだ知識や技術を踏まえ、専門教育分野と関連付けながら、う蝕の原因および食品とう蝕の誘発性を理解し、う蝕の予防法の基礎知識を修得する。また、う蝕予防処置業務における、フッ化物応用法、う蝕活動性試験等の目的を理解し、患者説明ができるようにする。									
到達目標	う蝕がどのようにできるのかを理解する。それらの基礎知識を踏まえて、様々なう蝕予防方法について理解し、個々人でできるもの、集団で行うものなど、う蝕予防に関する全体像を、技術とともに習熟する。									
学修者への期待等	①演習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。 ②提出物は、期日を守って提出すること。									
回	授業計画					準備学修		担当		
1	う蝕の基礎知識（う蝕はどのようにできるのか？）（合同講義）					テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（概ね30分）		鷲尾 純平		
2	う蝕の基礎知識（う蝕を予防するには？）（合同講義）					テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（概ね30分）		鷲尾 純平		
3	う蝕活動性試験（各種検査方法/具備すべき要件など）（合同講義）					テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（概ね30分）		鷲尾 純平		
4	う蝕活動性試験 演習①（クラス別演習）グループワーク					前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。（概ね30分）		伊藤 恵美 西條 佳奈		
5	う蝕活動性試験 演習②（データの解釈）（クラス別演習）グループワーク					前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。（概ね30分）		伊藤 恵美 西條 佳奈		
6	フッ化物（フッ化物とは？効果や使用方法など）（合同講義）					テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（概ね30分）		鷲尾 純平		
7	フッ化物（中毒など・洗口液の調整方法）（合同講義）					テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（概ね30分）		鷲尾 純平		
8	代用糖（代用糖とは？）（合同講義）					テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（概ね30分）		鷲尾 純平		
9	代用糖の効果（クラス別演習）グループワーク					前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。（概ね30分）		鷲尾 純平 伊藤 恵美 西條 佳奈		
10	地域歯科保健とう蝕予防（合同講義）					テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。（概ね30分）		鷲尾 純平		
教科書	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法』中垣晴男ほか著、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『歯科衛生学シリーズ 歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
備考	1～3回、6～8回、10回は遠隔(オンデマンド)で授業を実施する。 4・5回、9回は2クラスに分かれて演習を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHP-10				
	●									
科目名	口腔リハビリテーション論				単位 認定者	佐藤 奈央子 中川 大介		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	20 時間			
						授業回数	10 回			
授業の概要	摂食・嚥下のしくみとそれにかかわる障害についての歯科衛生士の役割を理解する。口腔の問題・障害を克服する口腔リハビリテーションについて学ぶ。									
到達目標	・摂食・嚥下の正常なしくみと生理について理解し、リハビリテーションにつながる評価について説明できる。 ・摂食・嚥下のトレーニングについて、その意味と適応を知る。									
学修者への 期待等	ただ単に聴講するだけでなく、取り組むべき課題を自分自身で見つけ、検討するという姿勢で授業に挑むこと。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	摂食・嚥下リハビリテーション概要					教科書1章 摂食・嚥下のメカニズムを読んでおくこと。(30分程度)			佐藤奈央子	
2	摂食・嚥下障害と歯科との関わり1（評価・訓練）					教科書2章 摂食・嚥下障害の観察と評価を読んでおくこと。(30分程度)			佐藤奈央子	
3	摂食・嚥下障害と歯科との関わり2（口腔ケア）					教科書5章 口腔ケアを読んでおくこと。(30分程度)			佐藤奈央子	
4	摂食・嚥下障害と歯科との関わり3（補綴等）					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			佐藤奈央子	
5	摂食・嚥下障害と歯科との関わり4（補綴等）					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			佐藤奈央子	
6	摂食嚥下に関わる諸器官の解剖					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			中川 大介	
7	摂食嚥下に関わる神経生理(脳神経を中心に)					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			中川 大介	
8	摂食嚥下のメカニズム(5期モデル)					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			中川 大介	
9	摂食嚥下のメカニズム(プロセスモデル等)					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			中川 大介	
10	摂食嚥下機能とその障害					前回の授業内容を復習しておくこと。(30分程度)			中川 大介	
教科書	『動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション』藤島一郎・柴本勇監修、中山書店									
参考文献	『口から食べる嚥下障害Q&A』藤島一郎著、中央法規出版株式会社									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果						科目ナンバリング																			
1 基礎力						DH-2-DHP-04																			
2 実践力																									
3 人間関係力																									
4 生涯学習力																									
5 地域理解力																									
科目名						う蝕予防処置法（臨床応用）		単位 認定者		鷲尾 純平 佐藤 聡子 伊藤 恵美				試験（筆記）		80 %									
対象学科 必修・選択 配当年次						歯科衛生学科		必修		3年		開講時期		前期		単位数		1 単位		評価の方法		受講態度		20 %	
														授業時間数		20 時間									
												授業形態		演習		授業回数		10 回							
授業の概要						「歯科予防処置法」「う蝕予防処置法（臨床基礎）」で学んだ、う蝕予防法の基本的知識・技術をもとに、フッ化物の応用法と小窩裂溝処置法の手技を修得する。また、歯と口腔の健康を維持・増進のために継続的なメンテナンスの必要性を理解し、う蝕予防プログラムの実践の手技を修得する。																			
到達目標						これまで「う蝕予防処置法（臨床基礎）」にて学んだ基本的な知識を踏まえて、様々なう蝕予防方法について演習を通じて、さらに理解を深めるとともに、その手技を身に着ける。また、個々人に合わせたう蝕予防プログラムの立案までのプロセスを理解し、実践する能力を身に着ける。																			
学修者への期待等						①実習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。 ②提出物は、期日を守って提出すること。																			
回						授業計画						準備学修						担当							
1						小窩裂溝填塞法とは？（合同講義）						テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。						佐藤 聡子							
2						小窩裂溝填塞法 模型実習（クラス別演習）						前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。						佐藤 聡子 伊藤 恵美 西條 佳奈							
3						フッ化物の応用（高濃度フッ化物塗布の方法・効果、フッ化ジアンミン銀塗布法） グループワーク						教本「科衛生士のための齶蝕予防処置法」第3章、第4章、第5章を読んで授業に臨むこと。（概ね45分程度）						伊藤 恵美 西條 佳奈							
4						小窩裂溝填塞法及びフッ化物歯面塗布法 相互演習①（クラス別演習）グループワーク						前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと。（概ね30分程度）						伊藤 恵美 西條 佳奈							
5						小窩裂溝填塞法及びフッ化物歯面塗布法 相互演習②（クラス別演習）グループワーク						前回の演習を振り返ったうえで、演習に臨むこと。（概ね30分程度）						伊藤 恵美 西條 佳奈							
6						小窩裂溝填塞法及びフッ化物歯面塗布法 相互演習③（クラス別演習）グループワーク						前回の演習を振り返ったうえで、演習に臨むこと。（概ね30分程度）						伊藤 恵美 西條 佳奈							
7						小窩裂溝填塞法及びフッ化物歯面塗布法 相互演習④（クラス別演習）グループワーク						前回の演習を振り返ったうえで、演習に臨むこと。（概ね30分程度）						伊藤 恵美 西條 佳奈							
8						う蝕予防プログラムの立案（基本）（合同講義）						事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい。						鷲尾 純平							
9						う蝕予防プログラムの立案（アドバンス）（合同講義）						事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい。						鷲尾 純平							
10						まとめ・総復習						事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい。						鷲尾 純平							
教科書						『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士のための齶蝕予防処置法』中垣晴男ほか著、医歯薬出版株式会社																			
参考文献						『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社																			
備考						8～10回は遠隔（オンデマンド）で実施する。2～7回は2クラスに分かれて演習を行う。																			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果						科目ナンバリング DH-2-DHP-05				

回	授業計画	準備学修	担当
12	SRP 相互演習 患者1人目（上下 術者交代） クラス別演習 業務記録 グループワーク	教本 歯周病学とシラバス9～11回の実習記録等で復習をして授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣
13	SRP 相互演習 患者2人目（上下 術者交代） クラス別演習 業務記録 グループワーク	教本 歯周病学とシラバス9～11回の実習記録等で復習をして授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣
14	SRP 相互演習 患者3人目（上下 術者交代） クラス別演習 業務記録 グループワーク	教本 歯周病学とシラバス9～11回の実習記録等で復習をして授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣
15	SRP 相互演習 患者1人目（上下 術者交代） クラス別演習 評価 グループワーク	教本 歯周病学とシラバス12～14回の実習記録等で復習をして授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣
16	SRP 相互演習 患者2人目（上下 術者交代） クラス別演習 評価 グループワーク	教本 歯周病学とシラバス12～14回の実習記録等で復習をして授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣
17	SRP 相互演習 患者3人目（上下 術者交代） クラス別演習 評価 グループワーク	教本 歯周病学とシラバス12～14回の実習記録等で復習をして授業に臨むこと。（概ね45分程度）	伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣
18	歯面・根面清掃演習/手用スケーラーの固定法（口腔外固定、保持固定） クラス別演習 グループワーク	教本 歯周病学Ⅲ編 6. 手用スケーラーの固定法をよく読んでおくこと（概ね30分）	伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣
19	歯面・根面清掃演習/手用スケーラーの固定法（口腔外固定、保持固定） クラス別演習 グループワーク		伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣
20	歯面・根面清掃演習/手用スケーラーの固定法（口腔外固定、保持固定） クラス別演習 グループワーク		伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣
教科書	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本 歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
備考	シラバス1回目は 合同授業 、2～20回目は実習室でクラス別演習を行う。 授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。演習レポート・課題は提出期限厳守。添削後、返却する。 授業の進捗状況により順番が前後することがある。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
歯科診療所で勤務経験のある教員が、歯周病予防法の専門的知識と技術を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-09				
		●	●	●	●					
科目名	保健指導演習Ⅲ（臨床総合）				単位 認定者	大宮 由布子		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	10 %
						授業時間数	60 時間		授業内課題	10 %
				授業形態	演習				授業回数	30 回
授業の概要	「保健指導論」,「保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）」,「保健指導演習Ⅱ（臨床応用）」を通して学んだ内容について, 歯科衛生過程を用いて, 実践する能力を身につける。									
到達目標	①各症例または事例における問題発見、解決方法を選択できる能力と口腔健康管理方法の知識、技術、態度を修得する。 ②歯科衛生過程に基づいた情報収集、ケア計画立案を行い、対象者に合わせた介入ができる。 ③計画内容および介入について評価・検討ができる。 ④口腔清掃指導の意義を理解し、継続した歯科衛生介入ができる。									
学修者への 期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかりと行い受講して欲しい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	歯科衛生過程の進め方					歯科予防処置・歯科保健指導論教科書Ⅲ編1章P100～119を読んで授業に臨んでください。(概ね40分程度)			大宮 由布子 千葉 藍	
2	歯科衛生過程の展開					前時の講義内容および歯科予防処置・歯科保健指導論教科書Ⅲ編2章P121～を復習して授業に臨んでください。(概ね30分程度)			大宮 由布子 千葉 藍	
3	口腔衛生管理 相互実習①（EPP、歯垢染色、TBI、PMTC）					前時の復習およびⅢ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理P121～を復習し授業に臨んでください。(概ね30分程度)			大宮 由布子 千葉 藍	
4	口腔衛生管理 相互実習②（EPP、歯垢染色、TBI、PMTC）								大宮 由布子 千葉 藍	
5	口腔衛生管理 相互実習③（EPP、歯垢染色、TBI、PMTC）								大宮 由布子 千葉 藍	
6	歯科衛生過程演習Ⅰ 1・3年生合同実習①(歯垢染色、TBI、PMTC)					前時授業内容を復習し、授業に臨んでください。 (概ね30分程度)			大宮 由布子 伊藤 恵美 三浦 悦子 花渕 静 西條 佳奈 伊藤 明日香 千葉 藍	
7	歯科衛生過程演習Ⅰ 1・3年生合同実習②(歯垢染色、TBI、PMTC)									
8	歯科衛生過程演習Ⅰ 1・3年生合同実習③(歯垢染色、TBI、PMTC)									
9	歯科衛生過程演習Ⅰ 1・3年生合同実習④(歯垢染色、TBI、PMTC)									
10	口腔衛生管理 歯磨剤の薬効成分 ①う蝕予防 ※ライオン					歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P268～P289を読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)			大宮 由布子	
11	口腔衛生管理 歯磨剤の薬効成分 ②歯周病予防 ※ライオン								大宮 由布子	
12	口腔衛生管理 口腔清掃補助用具について (粘膜ブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ、義歯用ブラシ、口腔ケア用具)					歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P282～P289を読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)			大宮 由布子	
13	口腔健康管理 口腔機能低下症					歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P153～P157を読んでおくこと。P360～P371を復習して授業に臨んでください。(概ね30分程度)			大宮 由布子 千葉 藍	
14	口腔健康管理 口腔機能管理に関わる指導					歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P289～P293を読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)			大宮 由布子	
15	在宅訪問口腔衛生管理					高齢者教科書Ⅳ編 3章 要介護高齢者への口腔ケアP138～151を復習して授業に臨んで下さい。(概ね30分程度)			大宮 由布子	
16	訪問口腔衛生指導 相互実習① 1人目、2人目(中央本館 介護実習室にて実習)								大宮 由布子 千葉 藍 宍戸 敦子	
17	訪問口腔衛生指導 相互実習② 3人目、4人目(中央本館 介護実習室にて実習)								大宮 由布子 千葉 藍 宍戸 敦子	

回	授業計画	準備学修	担当
18	口腔健康管理 生活習慣の指導 ①非感染性疾患	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P289～P301を読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮 由布子
19	口腔健康管理 生活習慣の指導 ②禁煙支援	歯科予防処置・歯科保健指導論教科書P289～P301を読んで授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮 由布子
20	歯科衛生過程演習Ⅱ (口腔衛生指導の計画)	歯科衛生過程演習Ⅰで得られた結果から、対象者の口腔清掃に関する問題点について考察し、歯科衛生介入計画を立ててください。(概ね30分程度)	大宮 由布子
21	歯科衛生過程演習Ⅱ (口腔衛生指導の計画)		大宮 由布子
22	歯科衛生過程演習Ⅱ 1・3年生合同実習①(歯垢染色、TBI、PMTC)	前時にまとめた内容および検討した実施計画を確認して授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮 由布子 伊藤 恵美 花渕 静 三浦 悦子 西條 佳奈 伊藤 明日香 千葉 藍
23	歯科衛生過程演習Ⅱ 1・3年生合同実習②(歯垢染色、TBI、PMTC)		
24	歯科衛生過程演習Ⅱ 1・3年生合同実習③(歯垢染色、TBI、PMTC)		
25	歯科衛生過程演習Ⅱ 1・3年生合同実習④(歯垢染色、TBI、PMTC)		
26	地域歯科保健活動 災害時の歯科保健 大規模災害時の保健医療対策	保健生態学教科書P317～324 Ⅲ編1章 4 健康危機管理	大宮 由布子 阿部 夕
27	地域保健活動 災害時の歯科保健 グループワーク	P387～393 8章 災害時の歯科保健を読んで授業に臨んで下さい。(概ね40分程度)	大宮 由布子 阿部 夕
28	口腔衛生管理 相互実習 (口腔内写真撮影、EPP、歯垢染色、TBI、PMTC)	前時の復習およびⅢ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理P121～を復習し授業に臨んでください。(概ね30分程度)	大宮 由布子 千葉 藍 宍戸 敦子
29	口腔衛生管理 相互実習 (口腔内写真撮影、EPP、歯垢染色、TBI、PMTC)		大宮 由布子 千葉 藍 宍戸 敦子
30	口腔衛生管理 相互実習 (口腔内写真撮影、EPP、歯垢染色、TBI、PMTC)		大宮 由布子 千葉 藍 宍戸 敦子
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常 2 歯科矯正」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 高齢者歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 障害者歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社		
参考文献	「最新歯科衛生士教本 歯周病学」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「健康寿命の延伸をめざした 口腔機能への気づきと支援 ライフステージごとの機能を守り育てる」(公財)ライオン歯科衛生研究所編、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」佐藤陽子・齋藤淳編著、医歯薬出版株式会社 「よくわかる歯科衛生過程」全国歯科衛生士教育協議会ほか編、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック」尾崎哲則・埴岡隆編著、医歯薬出版株式会社		
備考	シラバス1, 2, 10, 11, 13, 14, 15, 18～21, 26, 27は教室にて合同講義および演習。3～9, 12, 16, 17, 22～25, 28～30はクラス別実習室にて演習。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
歯科診療所で勤務実績のある教員が、各症例に対して具体的な口腔衛生管理および口腔機能管理について実践的技術を指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング DH-2-DHP-11				
		●								
科目名	口腔リハビリテーション演習				単位 認定者	中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	演習	授業回数		10 回	
授業の概要	摂食・嚥下のしくみとそれにかかわる障害についての歯科衛生士としての役割を理解する。口腔の問題・障害を克服する口腔リハビリテーションについて障害別に学び、ディスカッションを交えてプログラムを立案する。さらに相互実習を通じて技術の習得に努める。									
到達目標	口腔リハビリテーションチームの中での歯科衛生士の役割を理解する。									
学修者への期待等	口腔リハビリテーションは、患者様の健康とQOLに密接に関わる領域であり、チームの一員として患者様の食に関わります。真摯な態度で学んでいただくことを希望します。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	成人期の摂食嚥下障害(脳血管障害)				教科書の1章 摂食・嚥下のメカニズムを読んでおくこと(30分程度)				中川 大介	
2	成人期の摂食嚥下障害(神経・筋疾患、口腔がん関連)				前回の授業を復習しておくこと(30分程度)				中川 大介	
3	老年期の摂食嚥下障害(加齢、認知症)				教科書の2章 スクリーニングテストを読んでおくこと(30分程度)				中川 大介	
4	急性期・回復期の摂食・嚥下リハビリテーション「歯科衛生士の役割」				前回までの授業内容を復習しておくこと。(30分程度)				児玉 俊恵	
5	摂食嚥下機能の評価(情報収集、口腔運動感覚機能評価など)				教科書の2章 摂食嚥下障害の観察と評価を読んでおくこと(30分程度)				中川 大介	
6	口腔・嚥下機能の評価:スクリーニング検査(講義・演習)				教科書の2章 摂食嚥下障害の観察と評価を読んでおくこと(30分程度)				中川 大介	
7	特別養護老人ホームにおける口腔リハビリテーション				前回までの授業内容を復習しておくこと。(30分程度)				小川美由紀	
8	摂食嚥下障害の検査・診断(嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査) (グループワーク)				教科書の2章 嚥下造影と嚥下内視鏡検査を読んでおくこと(30分程度)				中川 大介	
9	治療的アプローチ:間接的訓練と直接的訓練(講義・演習)				教科書第3章 間接訓練、直接訓練を読んでおくこと(30分程度)				中川 大介	
10	食形態の調整と環境調整:トロミ剤の使用について等(講義・演習・グループワーク)				前回の授業を復習しておくこと(30分程度)				中川 大介	
教科書	『動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション』藤島一郎著、中山書店									
参考文献	『口から食べる-嚥下障害Q&A』藤島一郎著、中央法規出版株式会社									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-18					
	●	●									
科目名	救急法・救急蘇生法				単位認定者	下田 元 菅原 一昭		評価の方法	試験（筆記）	90	%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	10	%
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間		
							授業回数		15 回		
授業の概要	救急処置と蘇生法の基礎を学び、歯科医療スタッフの一員として現場で応用できるようになることを目的とする。										
到達目標	歯科口腔外科の臨床現場で、緊急時、適切で正しい救急処置と心肺蘇生法を実践できるようにする。										
学修者への期待等	教科書、講義資料などで関連事項を熟読し復習してください。歯科口腔外科臨床で患者さんの安心、安全な全身管理を行うための重要な科目です。身近な人が突然倒れたときに、救急救命の知識があれば命を救うことができます。無知であれば、救急車が到着するまでなすすべがなく救うことができません。後悔しないためにも救急救命法を学んで頂きたい。										
回	授業計画					準備学修			担当		
1	バイタルサインの評価、心肺蘇生法(BLS)の知識・手技の修得					教科書、講義資料などで関連内容を予習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)			下田 元		
2	ガイドンス(評価方法、受講するにあたっての心構え)応急手当の重要性。(目的・必要性・救命処置・心肺蘇生)					授業終了後、プリント回収。(チェックのため)			菅原一昭		
3	応急手当の重要性、救命の処置(心肺蘇生・AEDについて)					授業終了後、プリント回収。(チェックのため)			菅原一昭		
4	歯科口腔外科診療時の局所的・全身的偶発症、その症状、重症度評価、救急初期対処法、全身管理の修得					教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)			下田 元		
5	特殊な傷病とその応急手当(歯の損傷・溺水・熱中症・感電 アキレス腱断裂・RICE処置)					授業終了後、プリント回収。(チェックのため)			菅原一昭		
6	全身的基礎疾患を有する歯科口腔外科患者の病態評価、全身管理、発症時の緊急処置、救急対処法の修得					教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)			下田 元		
7	局所麻酔法、精神鎮静法、全身麻酔法、および、周術期患者管理、周術期合併症と緊急処置、救急対処法の修得					教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)			下田 元		
8	特殊な傷病とその応急手当(毒ヘビ・毒物・凍傷・意識障害 頭痛)					授業終了後、プリント回収。(チェックのため)			菅原一昭		
9	特殊な傷病とその応急手当(やけど・オスグット病・テニス肘 ジャンパーズニー・頸椎損傷、気道異物除去)					【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。			菅原一昭		
10	インシデント・アクシデント報告、医療事故と法的責任、歯科口腔外科患者の全身管理で歯科衛生士に期待される役割についての理解					教科書、講義資料などで関連内容を予習、復習し授業に臨んでください。(概ね1時間程度)			下田 元		
11	止血法、体位管理、救急医療					【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。			菅原一昭		
12	心肺蘇生法(成人)実技					【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。			菅原一昭		
13	心肺蘇生法の実技(成人・小児)実技					【事後】本時内容の復習(概ね1時間程度)をし、次回に備える。			菅原一昭		
14	心肺蘇生法の実技(成人)実技、AED、止血法					【事前】実技効果確認に備えて、理解してくる(概ね1時間程度)。			菅原一昭		
15	実技効果確認、総括					【事前】実技効果確認に備えて、理解してくる(概ね1時間程度)。			菅原一昭		
教科書	『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 菅原担当分はテキストは特に指定せず、随時プリントをこちらで準備する。										
参考文献	特に指定しない										
備考	下田:講義ごとにその講義内容に関連する資料を配布します。知識の整理、復習、応用に繋げる習慣を身に付けてください。 菅原:◎実技時、服装は白衣。ナースシューズ。髪は後ろで結ぶ。必要に応じ授業内容に関連する資料を配布します。(菅原担当分はクラス別で授業を実施する)◎授業で理解できなかったこと等の質問に関しては本館2階職員室(菅原)で対応する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果						科目ナンバリング DH-2-RDH-02			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）